

環礁 一本部だより



マーシャル方面遺族会

<http://mibfa1926.com>

●第53号



携帯サ介

●発行日: 令和8年2月1日 ●発行人: 高林 芳夫
●本部: 181-0012 東京都三鷹市上連雀8-7-8
●電話: 0422-77-8557 ●編集人: 鈴木千春



マーシャル諸島共和国大使館 (東京・等々力) にて見舞金の贈呈式 (2025.9.24)

新年あけましておめでとうございます。
 お健やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。令和8年4月5日(日)靖国神社にて慰霊祭を挙行致します。ご家族皆様お揃いでご参列下さい。
 令和7年10月21日、高市内閣が発足しました。日本の憲政史上、104代目で初めて女性首相が誕生しました。連立から公明党が離脱、代わりに日本維新の会が加わり、今後は与党間での遠慮が無くなりました。少数与党ですが思い切った政治力を発揮してほしいと願っています。新内閣発足一週間でのトランプ大統領との首脳会談も大成功でした。
 新内閣に望む事は、国民の安全保障と、明日への夢と希望の持てる社会実現をお願いします。
 8月26日、マーシャル諸島共和国の国会議事堂が火災で焼失、建国以来の災難との事です。当会として早速お見舞い申し上げ、復興の一助になればと見舞金を在京マーシャル大使館へお届けいたしました。
 また、青年部(孫・ひ孫・甥・姪)の輪が大きくなりました、グループラインでの情報交換を活発に行なっています。
 今年も皆様健康で明日への希望に満ちた年でありますようお祈り申し上げます。



令和8年度 慰霊祭・総会・直会のご案内



左記の通り慰霊祭・総会を開催します。皆様お誘い合わせのうえご参列下さい。

■日時 令和8年4月5日(日)
■受付 靖国神社参集殿前

9時30分より受付開始。10時15分までに受付をお済ませください。

■会場 参集殿2階「楠の間」
■総会 10時30分より

- ― 開会の辞
 - ― あいさつ
 - ― 活動報告
 - ― 会計報告
 - ― 会計監査報告
 - ― 今年度行事予定
 - ― その他
 - ― 閉会の辞
 - ― 織田邦男様 講話 11時より約30分間
 - ― 集合写真撮影 11時30分から約20分間
 - ― 慰霊祭 昇殿参拝 12時より約30分間
 - ― 直会(懇親会)
- アルカディア市ヶ谷2階 中国料理「翠」
靖国神社から徒歩で移動となります。

13時頃より開始

会費 お一人様 5000円

終了時刻 15時30分頃

※参加人数によりお店が変更される場合があります。

事務局よりお願い

◆出欠はがき

同封のはがきに必要事項をご記入のうえ、2月15日までにご投函下さい。

欠席の場合も同様に投函下さい。

◆会費

同封の振込用紙にて

2月末までに着金で、お振込みください。

(振込手数料は各自ご負担お願いします)

・年会費 3000円

・慰霊祭参加者お一人につき(お子様も)

玉串料 1000円

★今回より値上げになりました

・直会参加者 5000円

・寄付金 任意ですが、当会は皆様から

の会費とご寄付で運営しております。何卒ご協力をお願いします。

◆はがきに「クエゼリン現地慰霊」を希望されるか記入欄を設けています。

旅行代理店に見積り依頼はしていませんが、ご判断の目安として、

・予想される費用お一人様 約50万円

・日数 8日から10日

・行き方 成田からグアムで1泊し、グアムからクエゼリンまで約8時間

・訪問する島 クエゼリン、ルオット(米軍の都合次第)、マジユロ

前提条件として米軍の許可が必要なため、旅行代理店を通して申請します。

許可が出るまで約半年かかるため、日程はそのあと決まります。

旅行代理店の最小催行人数は未確認です。

◆クエゼリン以外の離島をご希望の方は、恐縮ですが個人旅行としてご手配ください。

◆会費未納の方がいらっしゃいます。2年間お振込みのない方は会報発送を停止します。

永代神楽祭

高林芳夫



後列左から 清水さん、高林会長
前列 保延さん 高林さん 小室さん 伊藤さん

令和7年7月15日、靖国神社にて当会の永代神楽祭に参列してまいりました。神官が英霊の名前をお一人ずつ読み上げての祭典ですので、私共マーシャル関係の名前が読み上げられるまでは少し時間が掛りました。巫女による「浦安の舞」は見事な舞でした。

永代神楽祭は親族がお参りに来られなくなっても、神社が毎年決まった日時に祭典を斎行して下さる祭事です。そのせいか、当日の参列者は少ないようです。

当会からは代表6名が御霊に感謝の誠と、家族の安寧をお願いして神楽祭は無事終了いたしました。

全国戦没者追悼式

鈴木千春



8月15日、天皇皇后両陛下の御臨席のもと、全国戦没者追悼式が日本武道館で行われました。今年は、終戦80年という区切りの年なので、会場にはいつもより多くの新聞、テレビ、通信社などメディアが殺到、若い記者が、高齢の遺族に声をかけ、取材する姿が多く見られました。

私は今回、光栄なことに東京都の遺族代表として「献花」の大役を仰せつかりました。座席もアリーナ席、祭壇の前から2列目でした。ちなみに私の目の前（最前列）には総理大臣はじめ、総経験者、各党の党首など、国会議員ばかりです。天皇皇后両陛下のお席にも近かつ

たため、私の隣には強そうなSPが座りました。会場には全国からの遺族（付添い人含め）約4千名が参列しました。

国歌斉唱、石



破総理大臣の式辞、正午の時報に合わせ全員で黙とうし、天皇陛下のお言葉を拝聴しました。衆・参の議長、最高裁長官が追悼の辞を述べ、献花がはじまります。

大臣たちのあと、都道府県名で呼ばれた私たちはグループごと、センターに7人が並び、スロープをのぼり献花台に花をそっと置きます。私は献花のあと、大きな標柱を見上げました。そのとき、思わず涙が出そうになりました。

「あ、英霊のみなさんはこの追悼式を上から、ご覧になつています。全国から集まる故郷の家族に会いに来られています」と、英霊の存在を感じたのです。会場のおちこちから聞こえる懐かしい故郷のお



右端が筆者

だと感じました。

私の後ろの席の男性は広島からで、兄がルソンで戦死され、お隣の女性は岡山から、父がブーゲンビルで戦死とのことでした。私は彼らにマーシャルの激戦のお話をしたら、残念なことに全くご存じなく、マーシャルの場所もわからないと言われてしまいました。もっと広く、マーシャルの戦いを国民に知らせなくては…新たな課題となりました。
今年には生涯忘れられない8月15日となりました。
※令和7年全国戦没者追悼式はYouTubeでも動画がみられます。

国なまりを聞いていますか、思いました。

そして何よりも天皇陛下がすぐそばにいらっしやる場所、あの標柱は、英霊の集場所なの

令和7年度東京都戦没者追悼式

和田一郎

8月15日11時30分から、文京区シビックホールで行われた東京都戦没者追悼式に、当遺族会の会長代理として参列して参りました。

座席は指定で客席の最前列、献花も一人での指名献花で、順番は壇上の来賓以外では2番目と驚くことばかりで、当会の格の高さを実感しました。

天皇陛下のお言葉（武道館の全国戦没者追悼式からの同時中継）はもちろん、数人の方の追悼の辞はそれぞれに聞きごたえがあり、亡くなった方への思いを新たにしました。



私も、伯父がクエゼリンで戦死し、また、父の従兄は、神奈川県上空で、戦闘機で迎撃中に撃墜されて亡くなりました。2人の頭に、その時、家族や日本の将来に

どのような思いがよぎったか、今の日本が彼らの思った日本になっているか考えさせられました。

また、日本は幸いなことに80年間戦争を経験せずに平和で済んだわけですが、今後のためにその理由を検討する必要がありますかと思われました。織田様のお話をさらに伺いたいと思つた次第です。

令和7年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑 秋季慰霊祭

高林芳夫

終戦80年の秋季慰霊祭は、秋晴れの10月17日13時より、秋篠宮皇嗣殿下、同妃殿下ご臨席のもと慰霊祭が始まりました。



自衛隊音楽隊の演奏に合わせて国歌斉唱、陸海空自衛隊代表部隊による敬礼動作に合わせ、茶の義、式辞、舞踊、児童合唱団、追悼の辞と続き、両殿下ご拝礼、一同拝礼。両殿下ご退場。次に献花、政府要人に続き遺族代表が献

花、私はマーシャル方面遺族会を代表して献花させて頂きました。
本日は会場いっぱい約400名が参列との事でした。

新入会員 (戦没地島名 戦没者との続柄)

愛媛県 渡部幸典様 (クエゼリン 甥)
・ 渡部 守様の後を継承
岩手県 原田 真様 (タラワ島 大甥)
ご入会ありがとうございます。

お詫びと訂正

会報50号に掲載の、新入会員 松尾綾子様ですが、お名前が間違っていました。正しくは 松尾絢子様です。
(綾子様→絢子様)
お詫びして訂正いたします。

訃報

佐藤享三様 岩手県 84才
謹んでお悔やみ申し上げます。

ご寄附

渡部幸典様 愛媛県 七千円

下釜正義様 福岡県 二千元
東 邦義様 千葉県 二千元
ご寄付をいただき、ありがとうございます。

NEWS ①

ウォッセ島遺骨収容派遣は10月14日から29日に実施され、今回は15柱相当の遺骨が発見されました。

NEWS ②

昨年8月25日午前0時過ぎの火災により、マジユロにある国会議事堂、公文書館、図書館、事務所、会議室などが焼失しました。



Chewy Lin Photo & Film/Chewy Lin



焼失前の国会議事堂

マーシャル大使館へ見舞金の贈呈式 古田誠一郎

昨年8月に若手会員の情報交換の場として、「青年部グループLINE」を立ち上げ、以来万博のマーシャル諸島共和国の展示や、本会報7ページにもご寄稿頂いているイバイ島在住の太田智明さんからの現地情報などで盛り上がりを見せております。

この矢先の8月26日、現地からの「国会議事堂が火災により焼失」との情報に接し、「会として何か支援を出来ないだろうか」との声が上がったため、会長にお伝えしたところ、他の役員の方々のご承諾も頂いたうえで、見舞金50万円をお渡しすることになりました。

当会としては大きな金額ではありませんが、簡単には現地へ行けない遺族に代わり遺骨や慰霊碑の保全、遺骨帰還事業へのお力添えを頂いている現地の皆様への気持ちも込めた金額です。そしてそれを正しく活用して頂くため、幹事の鈴木千春さんより、かつて在マーシャルの領事であられた外務省の岩田哲弥課長補佐を

ご紹介頂き、ご協力を仰ぐこととなりました。

贈呈式の準備は容易ではなく、岩田様より大使館との調整や持参品の準備など、ご多忙中にも関わらず、細部にわたり大変なご尽力を賜りましたお陰で、9月24日にマーシャル諸島共和国大使館（等々力）にて贈呈式が行われることとなりました。

当日は岩田課長補佐、高林会長、鈴木



駐日マーシャル諸島大使館

千春氏、吉村真澄氏、古田の5名で伺い、先方からはアレクサンダー・カーター

ー・ビンググ大使閣下、同令夫人、リサ・ラジカム・ケース首席公使、ギャリック・ニドア・ケレン一等書記官、渡辺和歌子事務官のご臨席を賜りました。

尚、事前に岩田様より贈呈用の挨拶状・目録に加え、海外の贈呈式等ではしばし目にするドネーション・チェック（小切手風の大きなパネル）をご準備頂



ヤックウェ、そして、おはようございます。
マーシャル諸島共和国大使館へようこそ。本日はお越しいただき、誠にありがとうございます。

マーシャル諸島政府および国民を代表して、日本のマーシャル方面遺族会の皆様へ心より感謝申し上げます。

皆様の温かいご厚意により、50万円というご寄付を賜りましたこと、深く感謝いたします。この寄付は、物質的な価値を超えた意味を持っています。それは、思いやり、記憶、そして日本とマーシャル諸島の人々を結ぶ永遠の友情の象徴です。

私たち二国は、独特な歴史を共有しています。戦没者のご遺族の皆様は、長きにわたり記憶、協力、和解の守護者としての役割を果たしてきました。

この寄付を高林会長と共に受け取ることができ、大変光栄に思います。そして、この機会が、私たち両国が今後も相互の尊敬と友情のもとで歩み続けることを示す意義あるものになると信じています。

改めて、マーシャル方面遺族会の皆様の善意ある行動に対し、感謝申し上げます。この機会が、両国民間の信頼と理解を、次の世代にわたって深めていくことを願っております。

コモルタタ、ありがとうございます。

ビンググ大使からのメッセージ

きました。

今回、国家間の援助ではなく、

民間団体である当遺族会が、いち早くお見舞いのご支援を表明したことで、ビンググ大使閣下をはじめ大使館の皆様方も深く感銘を覚えられたご様子で、閣下より「金額もさることながら、何より皆様の真心がマーシャルの国民にとってかけがえのない財産であり、国を代表して皆様に感謝申し上げます。今後も末長くマー

シャル方面遺族会の活動へ最大限の協力をしたい」旨のお言葉と、友情の証として大酋長など高位の方だけが身に着けるという大きな首飾り（最高の榮譽を表すものとのこと）を頂戴致しました。

式の後にはお茶会が設けられ、紅茶を頂きながら当会のあらましや戦後から今までの現地との関わり、また議事堂復興の進捗など様々な話題に花が咲き（お茶菓子は前日に閣下自らお買い求めに行かれたとのこと）、予定時間を大きく超え

See Page 6 Friday, October 24, 2025 • Volume 56, Number 43

Japan group helps us rebuild Nitijela

The Marshall Islands was honored for the Association of Pacific Island States (APIS) for its support of the rebuilding of the Nitijela building.

The building's opening took place at the Embassy of the Republic of the Marshall Islands in Tokyo, where Ambassador Akemaru C. Bang presented the Association of Pacific Island States (APIS) award to the Japanese group that assisted in the rebuilding of the Nitijela building.

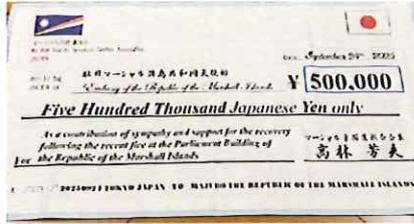
The Japanese group, led by Ambassador Akemaru C. Bang, presented the award to the Japanese group that assisted in the rebuilding of the Nitijela building.



最高の榮譽を表す首飾り

て11時半、お開きとなりました。尚、議事堂再建は本年8月の完成を目処に、各国からの援助が進められるとの事です。(日本からは別件の貢献が進行中。空港整備や貯水施設に多額の援助がなされているとのことでした)

2025.10.24の現地の新聞でも取り上げられました



した皆様には、この場を借りて心より御礼申し上げます。また、マーシャル諸島共和国国会議事堂の一日も早い復興をお祈り致します。

クエゼリンの慰霊碑を訪れて

太田智明

元教員の私は、現在JICAの海外協力隊員として、マーシャル諸島共和国のクエゼリン環礁に派遣され、当地で生活するパイ小学校に派遣され、当地で生活するようになつて約四ヶ月が経ちます。

母方の祖父が海軍で、クエゼリン環礁で艦と一緒に沈んでいるということですので、今回の派遣が決まったときには、母や伯父たちは「これはおじいちゃんが呼んだに違いない」と言つてとても喜んでくれました。

クエゼリン島内に慰霊碑があることは、派遣前に伯父からも聞いておりました。しかし、そこは米軍基地内ということので米軍関係者の紹介がないと入ることができませんので、お参りできるのは当分先だろうな...と思つておりました。ところが九月に入り、縁あつて基地内を訪問できる機会に恵まれました。

訪問が許可された日は、九月二十八日でした。当日、基地内での行動が許されたのは六時間ほどでしたので、案内していただいた方も「まずは慰霊碑に行きま

しよう」と、最初に連れて行つてくれました。

島の中心部から自転車を走らせること、二十分ほどでしょうか。ようやく慰霊碑に着きました。八十一年前にここですさまじい戦闘があつたとは思えない静かな環境で、ひっそりとした時間が流れていました。

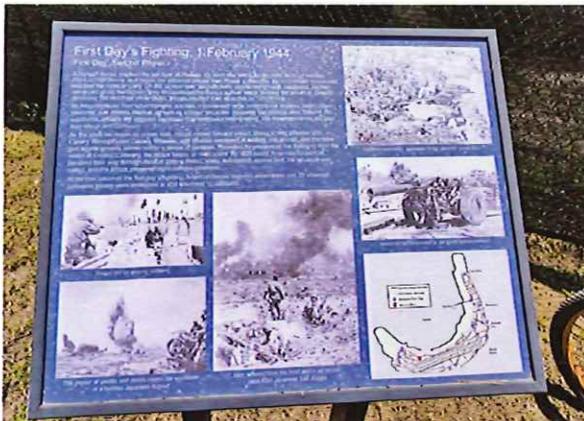
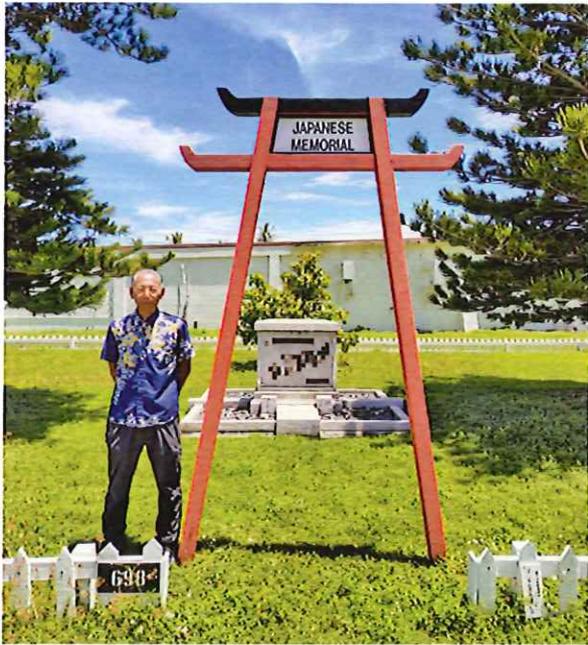
首都のマジュロの慰霊碑にお参りした際には、まわりに飲食した後のゴミが散乱し、あまりにも残念な光景に、私がおの場を整えてきました。

しかし、今回のクエゼリンの慰霊碑は米軍関係者がしっかり管理していただいているようで、ゴミひとつなく草もきれいに刈られてよく整えていただけておりました。とても有難いことだと思いたしました。「祖国のために命をかけた」ことに対するリスペクトは、日米関係なく共通の思いがあるのだと感じました。

「おじいちゃん、遺族会の皆さんとまた来るからね」と手を合わせ、慰霊碑を後にしました。

●太田さんは今後レギュラーで、会報に寄稿されます。

< イバイ在住、太田さんよりご提供いただいた現地慰霊碑の写真 >



※事務局へのご意見・ご感想、投稿記事、マーシャル関連情報などお寄せください。
お問合せ先 事務局・高林 048-223-6110 携帯090-3337-4531 メールアドレス takabayashi.yoshio@khaki.plala.or.jp